

和泉市都市計画マスタープラン

第1回 まちづくりワークショップ 記録

【北部・北西部地域】

日 時：平成 26 年 9 月 2 日（火） 19:00～21:00

場 所：和泉市コミュニティセンター 1 階大集会室

参加者：【北部地域】

信太中学校区 12人 富秋中学校区 7人

【北西部地域】

和泉中学校区 12人 郷荘中学校区 8人

兵庫大学エクステンション・カレッジ長 田端和彦先生

和泉市 6人

アルパック 6人

1 開会

開会のあいさつがありました。

2 ワークショップについての説明

事務局より、ワークショップの趣旨目的の説明と、全 3 回の流れ、本日の進め方などについて説明がありました。

3 専門家の先生からのお話し

田端和彦先生から、「住民参加のまちづくり」と題してお話がありました。

（お話しの概要）

- 都市計画法では、都市計画において住民はあくまでも協力者で、主役は国や地方公共団体である、と考えられてきました。
- しかし、それではうまく進まず、住民の意向・考え方を含めて実際の都市計画に反映させていく必要があるだろう、ということが考えられるようになってきました。都市計画マスタープランは、行政と住民の皆さんと一緒に考えて作っていくというのが、新たな流れとなっています。
- なぜこのようになったのかというと、経済が発達して成熟すると人々の思いも多様化し、都市に対する思いも多様化してくるからです。そして、現在はその住民の多様化したニーズに答えるのが財政的にも困難な状況にあります。そこで、行政だけでは困難なことをみんなで考えていく、住民参加によるまちづくりが行われるようになったのです。
- ワークショップのいいところは、肩書きを外して話ができるということです。具体的に考えて、



行動に結びつけることが大事であり、それをサポートしていくことが行政の役割です。民主主義を支える大事な場だということをご理解いただければと思います。

4 グループワーク

「身近な地域の資源と課題を考える」をテーマに、中学校区に分かれた話し合いがありました。

北西部地域

【1 和泉中学校区グループでの話し合い】

【資源】

●水辺等の自然環境

- ・榎尾川や松尾川沿いには豊かな水辺の自然環境がある
- ・松尾川公園等、あまり知られていないがすばらしい公園施設がたくさんある
- ・府中から黒鳥山公園への散策道や整備された自転車道など、歩いて（走って）気持ちのいい道がある

●文化・観光資源

- ・施福寺や旧跡等、文化財・観光資源といえる名所が点在している
- ・だんじり祭りや盆踊り等風土に根付いた無形文化がある
- ・趣のある狭い道路を活用できる

●交通利便性

- ・和泉府中駅から都心まですぐに出られる等、交通の利便はよい
- ・駅や市役所が近い

●教育・ひとのつながり

- ・ひとのつながりが強く、ふれあいがある
- ・豊かな自然を活かして、教育や食育などの取り組みもできるのではないか

【課題】

●自然環境

- ・豊かな自然や公園が散在しているが、それらを連続的につなげて欲しい（ルート化）
- ・河川沿いの地域は防災にも配慮しなければならない

●文化・観光資源

- ・文化財や観光資源は多くあるが、これらを活かすにはPRやルート作りが不可欠である
- ・地域の資源を表示するサインをつくってほしい
- ・市名の由来ともなった泉井上神社の和泉清水を復元してほしい

●安全な市街地の整備

- ・歩道のない道路が多く危険である
- ・特に安全な通学路を確保してほしい
- ・古い市街地では、細い道路が多く、震災がくるとひとたまりもないと思う
- ・駅周辺の交通の流れが悪い

- ・古い団地などでは水道管やガス管等、目に見えないインフラが老朽化しているのでは
- まちなかの衰退
 - ・JR 駅前の商店街等が衰退しているので、復活してほしい
 - ・JR 駅周辺の地域が高齢化している
 - ・若者の集まれる場所がない
 - ・伯太校区は高齢者が多いが、スーパーが少なく買い物出来ない状況

【2 郷荘中学校区グループでの話し合い】

【資源】

- 自然が豊か
 - ・北西部東側には、自然が多く残っている
 - ・田畑が多い
- コミュニティー
 - ・人の温かさを感じることのできる地域である
 - ・人と人とのつながりが強い
- 生活利便性
 - ・駅が近く、買い物が便利
 - ・物価が安いように思う
 - ・阪本町にスーパーが出来て買い物がし易くなった
- 歩道の整備が進んでいる地区がある
 - ・桑原町内の歩道の整備が進んでいて、歩きやすい
 - ・寺門町から駅まで遊歩道が出来た
- 歴史資源
 - ・観音寺の楠など歴史を感じることが出来るものが残っている

【課題】

- 歩道の整備がまだ十分でない
 - ・歩道幅員が狭い、勾配があるなど、車椅子では移動しづらい
 - ・規制があるのか、街灯がつけられない道がある
 - ・小学校の前の通学路に歩道がなく、交通量も多いので危険
- 交通網の整備
 - ・北西部の東部地区にはバス路線が少なく、歩道もなく移動しにくい
 - ・車がないと生活できない地区がある
 - ・観光しようにも歩道もレンタサイクルも整備されておらず行けない
- 自転車の問題
 - ・自転車が歩道を走ってくるので、ただでさえ狭い歩道が使えない
- 駅前の賑わい
 - ・大型商店は出来ているが、駅前商店街には活気がない
 - ・高齢者の行けるような店が少ない

北部地域

【3 信太中学校区グループでの話し合い】

【資源】

- 奥深い文化が地域の誇り
 - ・全国的に特筆できる大阪府立弥生文化博物館
 - ・葛の葉伝説のある町
 - ・地元の小学生が郷土学習をして、信太の森ふるさと館で展示していた。歴史文化が継承されているのがすばらしい
- 身近に豊かな自然がある
 - ・鶴山台志保池公園、惣ヶ池、聖神社のシリブカガシなど
 - ・蔭涼寺のギンモクセイ（大阪府指定天然記念物）
 - ・地形そのものが池や斜面緑地などの自然を残すことにつながっている
 - ・信太山一帯の自然、湿地の環境、生物の宝庫
 - ・信太山丘陵の自然を活かした公園づくり
 - ・景色のきれいな大野池、惣ヶ池の景色がきれい
 - ・桜の名所が多い
 - ・鶴山台 2 号公園は、高台からの眺望がよい
 - ・鶴山台中央のメイン道路の街路樹、団地周りの緑も豊かでよい
 - ・市外だが、浜寺公園の海まで近い（3km ぐらい）。子どもの頃はよく遊んだ
- 暮らしやすい恵まれた生活環境
 - ・大阪の都心まで 20～30 分と近く便利。高速道路インターチェンジも空港も近い。行動派の人には便利。その上、近くに自然がある。ある意味贅沢な生活環境だと思う
 - ・住みやすい町、買い物も便利
 - ・買い物、病院（開業医）、コンビニ等が近くにあると便利
- 人付き合い
 - ・こじんまりした地域なので、みんな顔見知りの安心感がある
 - ・特に旧来からの市街地、旧街道の通るあたりの町は、地縁・血縁が強い。強い絆がある
 - ・社寺が多いのも地域の絆がしっかりしているから

【課題】

- 北信太駅周辺の整備が遅れ不便である
 - ・駅前が整備されていない。バス、タクシー、送迎車が駅前に入れない
 - ・駅前ロータリーが無いのは北信太駅だけ。取り残されている
 - ・駅とバス停の間が遠い。不便
 - ・駅前が寂れている
- 幹線道路の整備、歩行者の安全性確保
 - ・大阪和泉南線（府道 30 号線）は歩道が狭く車の通行が多くて、危険で不便
 - ・特に歩道が狭いので子どもだけで通行させるのは不安
 - ・東側に整備中のバイパス道路（大阪岸和田南海線）の整備を速やかに進めてもらいたい

●鶴山台団地の老朽化

- ・建物も老朽化しているが、居住者も高齢化、若者流出、人口減少が著しい
- ・近い将来、高齢者ばかりの団地になってしまう懸念
- ・大家である UR 都市機構にがんばって取り組んでほしい
- ・鶴山台にも図書館が必要ではないか

●町や人の変化

- ・旧来からの市街地では高齢者が多く、空き家（賃貸の空き住戸）も増えている
- ・新しく入る人は、自治会に入らない人が多く、つきあいが減ってきている
- ・核家族化、世帯の小規模化が進んでいるので、子どもと高齢者がともに集える、ふれあえる施設などがあればいいと思う。文化施設や図書館、ホールなどをうまく充実できないか
- ・子どもが安心して遊べる場が少ない。学校開放ぐらいではないか

【4 富秋中学校区グループでの話し合い】

【資源】

- 歴史的な資源が残っている（池上曾根遺跡、大阪府立弥生文化博物館、だんじり）
 - ・池上曾根遺跡は、とても価値ある遺跡
 - ・遺跡までの道では「花を咲かそう会」が、プランターに花を育てている。ポイ捨てがなくなった
 - ・北部では、だんじり祭りが 3 日間あり、とても盛ん。聖神社への道には大きな鳥居があり、また神社の近くには古いみこしを置く台（御旅所）があり、地域の歴史を感じる
 - ・聖神社近くで行う盆踊りでは、自衛隊も協力してくれ、盛り上がる
- 自然が豊か
 - ・信太山丘陵（大野池周辺）は、緑が豊か。遊歩道があればいいと思う。
- 保育所が多く、子どもを預けやすい
 - ・保育所の数が多いので、子どもを預けやすく、その意味では子育てしやすい
- その他
 - ・「I-pearl」では人工真珠の販売があり、有名で人気
 - ・高速道路の乗り口があり便利

【課題】

- 狭い道が多い、駅前は特に混雑
 - ・全体的に道路が狭く、暗い。こどもの通行が危ない箇所もある
 - ・北信太駅前には特に道路が混む。遺跡へのアクセス道路が良くない
 - ・大阪和泉南線（府道 30 号）は信号が多い（脇道が多いから）
 - ・青少年センターから北部リージョンセンターに向かう道（大阪岸和田南海線）は、整備が途中までしか進んでいない。中途半端で役に立たない
- 駅前の商店街がさみしい
 - ・北信太駅前の商店街が、元気がなくさみしい雰囲気
- 団地では、住民の高齢化が進み、独居老人が増えている心配

- ・鶴山台の団地は5階建てだが、エレベーターがなく、老人にとって住みにくい
- ・高齢化が進んでおり、独居老人も増えている
- ・空き部屋が増えれば、さみしい雰囲気になり、また防犯上もよくないだろう

●その他

- ・町会に加入する住民が少ない。街灯をLEDにした維持管理費は町会費から出しているのに、知らずに恩恵を受けている住民も多い
- ・泉大津市の土地が混在していて、分かりにくい

5 グループ別発表

各グループで出た意見の概要を紹介し、全体で共有しました。

<先生のコメント>

- ・資源としてだんじりや無形文化財、人のつながりなど、地図に書けないものが多く挙げられていました。人のつながりはまちづくりにおいて非常に重要です。これからのまちづくりにどう活かしていくのか議論していければと思います。
- ・観光資源の課題としては、点在していてネットワーク化ができていないということが意見としてありました。観光資源には2つ種類があり、外から来てもらうための資源、自分たちの住みやすさのための資源があります。ここで挙げられた観光資源がどちらなのかということは、これからの議論で見えてくると思います。
- ・大きな課題として交通網のことが言われていましたが、その中でも歩道の問題など、身近な交通の問題がでてきたのは、ワークショップならではの点だと思います。
- ・団地の高齢化や子育て環境については、すぐに解決する課題ではありませんが、都市計画マスタープランは先を見て考えなければならないため、これらの指摘は重要だと思います。

6 閉会

次回の開催日時について、説明がありました。

以 上

和泉市都市計画マスタープラン

第1回 まちづくりワークショップ 記録

【中部地域】

日 時：平成 26 年 9 月 3 日（水） 19:00～21:00

場 所：和泉シティプラザ 地下 1 階多目的室

参加者：【中部地域】

北池田中学校区 11人 南池田中学校区 9人
石尾中学校区 13人 光明台中学校区 7人
大阪市立大学大学院工学研究科 准教授 嘉名光市先生
和泉市 6人
アルパック 5人

1 開会

開会のあいさつがありました。

2 ワークショップについての説明

事務局より、ワークショップの趣旨目的の説明と、全 3 回の流れ、本日の進め方などについて説明がありました。

3 専門家の先生からのお話し

嘉名光市先生から、「住民参加のまちづくり」と題してお話がありました。

（お話しの概要）

- 本日は分かりやすくまちづくりを解説しているものとして、次年度から採用される小学校 6 年生の国語の教科書の抜粋を紹介します。
- その中で、「コミュニティ・デザイン」が紹介されています。山崎亮さんが実践されている取組で、今後存続が危ぶまれるような地域で「地域のこれからがどのようにあって欲しいか」という『思い』を拾い出し、地域の力を引き出していきます。
- 紹介されている事例の一つ目は、「有馬富士公園」です。行政によりつくられた公園ですが、市民グループがプログラムを展開することで、来場者数が増加し成功した事例とされています。
- 二つ目は、島根県の隠岐郡にある離島「海士町」です。このまちは人口が減少し、島内唯一の高校が廃校になってしまうという危機が訪れました。みんなで話し合った結果、「高校が存続できるように高校生を集めよう」ということになり、住民の方々が「島留学」を提案しました。島留学というのは、島の豊かな環境・人のあたたかさを売りに、全国から学生を募集する高校



をみんなで支えるという取組です。これは「バックキャストिंग」という思考の方法で、まず未来を描き、その未来と現在とのずれを解消するための取組を具体的に考えるものです。未来志向の方法で、ワークショップでも是非、意識してほしいと思います。

- ・ワークショップでは悪い点もたくさん出てくると思いますが、自分たちのまちの強みやまちの良さをうまく活かしながらまちづくりに取り組んでほしいと思います。
- ・最近の教育では、社会科等でも「まちのことを調べよう」といった内容が含まれていますので、実は子どもたちの方がまちのことを良く知っているかもしれませんね。一度、子どもたちの意見を聞いてみるのもいいかもしれません。

4 グループワーク

「身近な地域の資源と課題を考える」をテーマに、中学校区に分かれた話し合いがありました。

【1 北池田中学校区グループでの話し合い】

【資源】

- 日常生活に便利な生活環境
 - ・COOP ができて買い物が便利になった
 - ・エコー北館の郵便局が便利
- 市民サービスが充実している
 - ・和泉シティプラザは市民サービスが充実している
 - ・いずみ・エンゼルハウス和泉中央では、子育てをしている親どうしてコミュニケーションがとれる
- 公園・緑地が充実している
 - ・中央公園、いしたちはら公園、和泉リサイクル環境公園など
 - ・南部エリアは緑が豊かである
 - ・中央公園は住民が手入れをしていて綺麗に保たれている
- 歴史文化遺産がある
 - ・古墳や池上曾根遺跡など
- 古い町並みがある
 - ・和泉市久保惣記念美術館周辺の古い町並み
- 住民の活動がある
 - ・校区運動会、校区夏祭り、こどもだんじり、防災訓練
 - ・杉谷乗馬クラブ

【課題】

- 新しい住宅地の将来に対する不安
 - ・いぶき野では、マンションは入れ替わりがあるが、戸建ては入れ替わりがあまりなく、10年後人がいなくなる恐れがある
 - ・住宅展示場の跡地をどうするのか
 - ・UR 都市機構が撤退する

- ・ オールドニュータウン化していく不安がある
- 道路が狭い等、交通の課題
 - ・ 新しい住宅地は、道が広く、整備されているが、槇尾川を挟んで対岸の集落では道が狭く、暗い所もあり、危ない
 - ・ COOP と和泉郵便局の間の道は横断歩道がないが、横断する人が絶えず危険である
 - ・ 和泉中央駅の前の道が混雑する
 - ・ 泉州山手線（泉北 1 号線）が混雑する
 - ・ いぶき野 3 丁目へのアクセス道のカーブがきつく危険である
 - ・ 北池田小学校への通学路が狭い
- 防災に対する不安
 - ・ 槇尾川沿いで、ハザードマップにおいて、危険な区域がある
 - ・ 小学校の防災倉庫に入っているものが足りない
 - ・ 以前は防災訓練が盛り上がっていたが、最近はなくなった
- 教育の充実等、ソフト面における魅力づくりが必要
 - ・ 子どもの教育だけではなく、大人も学べるような生涯学習施設が少ない
 - ・ 高校・大学を誘致するべきである
 - ・ 美術館への支援が必要
- 公園の手入れや使い方の課題
 - ・ 中央公園は土が流れていて美しくない、活用度が低い
 - ・ いぶき野 3 号公園内でトラブルが多発している。不法駐車や公園内の使い方に問題がある
 - ・ 和泉リサイクル環境公園周辺でゴミの不法投棄がある
 - ・ 子どもの遊び場が少ない。公園では禁止されていることが多い
- 住民どうしのつながりの希薄化
 - ・ あいさつ運動を進めているが、いまだに挨拶が少ない
 - ・ 自治会への加入が少ない、行事に参加する人が少ない
 - ・ 地域に交流の場が少ない
- 【その他】
- 子どものふる里づくりが必要
 - ・ 住宅地において、地域に対する愛着が少ない。子どもの心のふる里づくりが必要だと感じる

【2班：南池田中学校区グループでの話し合い】

【資源】

- 店や病院が多く、便利
 - ・ 小さなスーパー含め店が多く、また医院も多い。生活に便利。便利な割に、静かに暮らせる
 - ・ 必要な施設がコンパクトにまとまり、無駄がない
- 公園が充実している
 - ・ 公園や緑地の数が多い
 - ・ 光明池周辺は自然が豊かで景観がいい
- 和泉中央駅周辺からは、360 度パノラマの風景が望める

- ・広い範囲を見渡すことができる。中でも、和泉山脈の緑は印象的で、大切な資源

【課題】

- 和泉中央駅周辺や岸和田和泉 IC の周辺は道路が混雑するなど、道路の課題
 - ・和泉中央駅周辺、室堂から駅までの府道などが混雑している
 - ・岸和田和泉 IC 周辺、コストコ周辺は車が渋滞する
 - ・歩道は車道との擦りつけが多く、車いすが通りにくい設計になってしまっている
- いいまちなみを守り、つくっていききたい
 - ・はつが野や青葉台のまちなみを守っていききたい。住民の後継者をつくらないといけない
- 住民どうしの支え合いが今後必要（今はない）
 - ・新しい住宅地では、住民が協力して行う防災や治安面での活動など、支え合いの活動が必要
- 新しい住宅地と、古くからある村とが断絶してしまっている
 - ・場所は隣どうしだが、関わりがない。ハードやソフト面で、つなげてほしい
- 集落の中は、道路が狭く、家並みが煩雑
 - ・道路が里道のような状況で、通りにくい。空き家も増えてきた
 - ・下水道に接続していない家があり、なんとかしてほしい
- 松尾寺より南の産廃置き場
 - ・産廃置き場がたくさんあり、水が汚れてしまうのではないか
- 地域の後継者づくり～オールドタウン化しないように～
 - ・若者は大阪に出ていくものだが、それでは地域が高齢化するばかり
 - ・自然や教育環境など、子育てにはかなりいい環境なので、「子育てをするまち」として、若者に帰ってきてもらってはどうか

【その他】

- 住民のマナーがよくない
 - ・歩道上へのタバコのポイ捨てがある。和泉ナンバーというと、やんちゃなイメージがある
- 小学校や保育園の教育・サービスについて
 - ・子どもが増えていて、小学校がマンモス化している。保育園のサービスを向上してほしい
- 総合的なスポーツ公園がない
- 和泉市の知名度が低い
- 南部地域の自然が財産。どう手入れするか、どう活かすかが課題
- 公園や街路樹の維持管理が行き届いていない

【3班：石尾中学校区グループでの話し合い】

【資源】

- 自治会・地域の交流が活発
 - ・自治会がしっかりしている、自治会活動が活発
 - ・若い力を確保する為、小学児童との交流に力を入れている
 - ・老人、子ども、世代間交流が活発
 - ・飲み会が多くて楽しい、ゴルフ仲間が多い

- ・町の歴史、町中、近所の交流が多い
- ・自治会館で100円コーヒーが飲める
- 祭り・イベントが盛ん
- ・ちょいず（和泉市あなたが選ぶ市民活動支援事業）が地域を活性化している
- ・ジャズストリートをや泉のまちおこしの目玉に！
- 教育・文化（環境が整っている）
- ・桃山学院大学を含めた教育の街
- ・文化の街づくり（美術館のある街）
- ・市民創作教室
- 公園・緑が豊富
- ・緑が豊か、緑が多い
- ・大きな公園がある、比較的広い公園が多い
- ・田んぼなどがあるので自然が残っている
- ・近くにつくしの公園、いおり公園などが出来た
- 便利な街（動ける人・若い人にとって）
- ・スーパーが多く、近くて便利
- ・飲食店が多い
- ・ららぽーと&コストコ、和泉中央を含めた街、商業の街
- ・診療等の整備が良くなってきた
- その他
- ・整ったまちなみ

【課題】

- 交通量・通過交通多い
- ・交通量が増加すると思われる、ららぽーと付近の道路整備が必要
- ・住宅地内を通り抜ける車が多い
- 植栽の管理等
- ・道路の雑草が多く、車から子どもが見えにくい
- 不法駐車
- ・住宅地内に不法駐車場がみられる
- 通学路の安全性
- ・通学路なのに十分に整備されていない
- ・北松尾小の通学路が危ない
- 道路の整備
- ・東西方向の整備が遅れている
- ・歩車道の分離が必要
- ・歩道に段差がある
- 街灯の未整備（暗い）
- ・街路灯が少ないので夜道が危ない

- 施設の偏り
 - ・市役所など行政関係（施設）をもっと中央部へ
 - ・10年後には買い物困難者が増加（高齢化のため）する。支援策が必要
 - ・近所には店が少ない（和泉中央にはあるが）
- 坂道が多い
 - ・坂道が多い関係から車両の制限速度を守らない車が多い
 - ・坂の多いまち。バスが重要なので料金を安くするべき
- 少子高齢化
 - ・子どもが少ない（活気がない）
 - ・一部の住宅地では高齢化が進んでいる
- その他
 - ・もっと地場産業を見直すべき（竹、木、ガラス、織物とのコラボ）

【4班：光明台中学校区グループでの話し合い】

【資源】

- すばらしい水辺・公園などの自然環境
 - ・光明池はすばらしい
 - ・光明池周辺などの緑地や並木道があり、自然が豊かである
 - ・谷山池・梨本池・榎尾川の水辺が気持ち良い
 - ・鐘の鳴る公園（光明池5号公園）の鐘は親しみがある
 - ・お散歩できる道やまちなかの公園など身近な自然が充実している
 - ・植物や昆虫に詳しい人が多い
- 文化・観光資源が点在する
 - ・和泉市久保惣記念美術館は誇れる施設である
 - ・春日神社などの名所がある
 - ・和泉中央駅から見える夕日は格別である
- 高質な住宅地がある
 - ・敷地が大きく、閑静な住宅地がある
- 施設等が充実している充実
 - ・コミュニティ体育館、和泉シティプラザ等の施設が整っている
 - ・アムゼモールの催し
- 子どもが多い
 - ・通学路や公園から子どもの声がする
 - ・地域と子どものつながりが強い
 - ・中学校には不良は少ない
- その他
 - ・堺市の恩恵を一番受けている
 - ・老人会に活動力がある

【課題】

●公園や水辺等自然環境の改善

- ・光明池周辺の再整備をしてほしい
- ・池のまわりや農道周辺の不法投棄をなくすべきである
- ・三林町など竹やぶの管理がいきとどいていない

●住宅地やオールドニュータウンの問題

- ・高齢化が著しい
- ・医療と介護施設が不足している
- ・空き家が増加している
- ・建物が老朽化している
- ・宗教の勧誘等、お年寄りを狙ったものが多くなっている
- ・坂道が多く、特に高齢者にはつらい
- ・1世帯あたりの車の数が増え、路上駐車も増加している
- ・高齢者の居場所がない
- ・和泉中央への交通の便が悪い地域も多い
- ・買い物ができる施設から離れた団地などもある
- ・小学校から遠い団地では、小学生が通学途中いたずらをしがちである

●地域のコミュニティの改善

- ・新興住宅地の住民との交流の場がない
- ・郷里のコミュニティが希薄になってきている

●施設の活用

- ・和泉市久保惣記念美術館がうまく利用されていない

●その他

- ・新しく道路が開通し、通過交通が増加した
- ・住宅地まで畑の野焼きの臭いがする
- ・保育環境を改善してほしい

5 グループ別発表

各グループで出た意見の概要を紹介し、全体で共有しました。

<先生のコメント>

- ・今日の話合いでは、しっかりと「まちの良いところ」に関する意見を挙げていただきました。良い部分を今後、どのように（将来像）に繋げていくかが大事です。
- ・用途地域図を見ると、和泉市では、住宅地が多いことが分かります。この地域はルールで守られており、住宅地にそぐわない建築物は建たないようになっています。私が気になるのは、「準工業地域」の面積が広いことです。昔からある集落部分は概ね指定されています。もともと地場産業が盛んで、町工場のような小規模な工場の操業を受け入れてきたからだと思います。

- 準工業地域は実は、どんな用途の建物でも建てることの出来る地域です。いまは農地の緑もあり、閑静な住宅の良い環境が残されているかもしれませんが、しかし新しい建物に建て替わっていくことで、好ましくない環境になる恐れもあります。現状のルールのままでもいいのかということについても、今後のワークショップで考えて頂きたいと思います。
- 大阪府には千里と泉北の大きなニュータウンが二つあり、現在はオールドタウン問題が発生しています。和泉市の住宅地は出来た時期が遅いため、これから問題が起こってくるでしょう。既存と新規の住民の交流を図る、子ども達が将来住み続ける・帰ってくるように取り組むなど早めの対策が必要で、そのためにはまちの良さを共有する必要があります。いまでは土地家屋の価格も落ち着いていますし、住みやすい環境を強みにすると思います。
- 次回までに、新聞等で情報を集めてもらい、「こういう取組が和泉市には合う」など考えてみてください。

6 閉会

次回の開催日時について、説明がありました。

以 上

和泉市都市計画マスタープラン

第1回 まちづくりワークショップ 記録

【南部・中部(一部)地域】

日 時：平成 26 年 9 月 10 日（水）19:00～21:00

場 所：和泉市南部リージョンセンター 2階大会議室

参加者：【南部地域】

槇尾中学校区 27人

【中部地域】

南松尾中学校区 6人

大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 教授 下村泰彦先生

和泉市 6人

アルパック 3人

1 開会

開会のあいさつがありました。

2 ワークショップについての説明

事務局より、ワークショップの趣旨目的の説明と、全3回の流れ、本日の進め方などについて説明がありました。

3 専門家の先生からのお話し

下村泰彦先生から、「住民参画のまちづくり」と題してお話がありました。

（お話しの概要）

- 和泉市のまち全体を考える計画としては、「総合計画」があります。7つの「目指すまちの姿」が掲げられていて、力を合わせてそれを実現していくという計画です。その中の分野の一つで、「大きな都市のしくみ」や「土地の利用のされ方」を示すのが、「都市計画マスタープラン」です。都市マスの中には、地域ごとの特色を活かして構想をつくる「地域別構想」があります。
- 和泉市の都市構造として、「市街地」「住宅地」「田園集落」「自然緑地」が、開けた平地から山地へと、分布して成り立っており、平成 11 年につくった都市マスでは、この都市の構造を捉えながら将来を展望し、計画されています。地域別構想では、例えば「地域生活の拠点」「交通網」など様々なことを定めますが、それはみなさんから、地域のことを詳しくお聞きして、参考にしながらつくります。
- これからのまちづくりは、「協働」で進めていきます。これまでもみなさんは、道普請などを



地域で協力して行われてきたと思います。そのように、まちづくりの基本は、「自分たちでできることは自分たちで」です。その上で、もしできないことが出てきたら、行政と一緒にやる、という取り組み方が、協働です。

- ・まちづくりで心がけるべきことは、7つ挙げられます。時間のかかることもありますが、身近なことから取り組んでもらいたいと思います。

4 グループワーク

「身近な地域の資源と課題を考える」をテーマに、中学校区に分かれた話し合いがありました。南部地域については、槇尾中学校区から多数ご参加いただいたため、2つのグループをつくりました。

南部地域

【1 槇尾中学校区グループでの話し合い】グループ1

【資源】

- 人と人のふれあい、ご近所づきあい
 - ・地域内コミュニティがある
 - ・助け合い、協調の精神がある
 - ・地域の人つながりがよい。お年寄りが地域の子どもを大切にしている
 - ・地域でイベントに取り組む（納涼祭など）
 - ・森づくり、白炭づくりなど、人の集まる森林作りに取り組んでいる。森を活かすことは、南部にしかできない特徴的なこと
 - ・道の駅やいちご園、施福寺など、外から人を呼べる拠点がある。また和歌山県との府県境トンネルが開通すると和歌山県との交流も増えるかもしれない
- 子どもたちが育つ環境
 - ・年齢・学年を越えて子どもたちが仲良し（南横山小学校）
- 豊かな自然（緑、川、生き物）
 - ・自然が豊か。自然に囲まれた生活環境
 - ・白川、ざんばい澗
 - ・オオムラサキ、貴重な動植物
 - ・国定公園を守り、山間地の緑を守る
- 歴史
 - ・他市に誇れる緑と、その中にある歴史的建物。整備して守っていききたい
- 安全・安心な生活環境
 - ・自然災害（台風、地震）は比較的少ない
- 食
 - ・「葉菜の森」で取れたて野菜が買える。地域外からも買いに来てくれる

【課題】

●人口減少、若者流出、高齢化

- ・若い人が少ない、働く場や子どもの教育環境を求めて出て行ってしまふ
- ・年寄りも病院に行きやすいところへ出て行く
- ・出て行けない人だけが取り残される
- ・高齢者が多いので、今後は急激に人口が減少する

●生活環境の悪化、劣化

- ・人口が減って空き家が増加。管理が行き届かない。利用されずもったいない
- ・農道脇に産廃の山ができています
- ・国道170号（大阪外環状線）沿道の工場や産廃置き場など、荒れた環境・景観になっている
- ・歓迎されない迷惑業者がだんだん増えてきている
- ・農家の野焼きが迷惑。制限してほしい

●農業、農地の継続

- ・農業の担い手も不足し、残したい田園風景がだんだん無くなっていく
- ・遊休農地が増えてイノシシやアライグマが寄りつきやすい。農作物に被害が出ている
- ・近代的な農業ができるように農地法などの改正が必要

●公共施設の整備、維持管理

- ・橋の老朽化（宮の前橋など）
- ・通学路の歩道の明示がされておらず危険
- ・下水道の整備が遅れている
- ・道路の整備が遅れている
- ・農用地や水路の改善も必要

【提案など】

●人口減少にいかに関わり向かうか

- ・空き家を活用して新しい人が外から移り住めるようにしてはどうか。空き家活用など人口増加につながる取り組みに補助金を出すような仕組みを市に考えてほしい
- ・ここに住みたいという人がいたとしても、家を建てるができない。人口増加でなく人口維持のために、地縁者や血縁者などが家を建てられるように規制緩和してほしい
- ・車が運転できなくなると生活できない。公共的な交通手段の確保が必要
- ・若い人が出て行かずに住めるように企業誘致して働きやすい環境を作ってはどうか
- ・観光・交流拠点をもっとテコ入れ・PRして、人気が高まれば、働く場もできるし、地域が活性化するかもしれない
- ・人が増える→その人向けの商売ができる→人が出て行かない→人が人を呼ぶ・・・といった好循環が生まれるような状態に持って行くことが大切。そのための一歩目をどうしていくかを考える必要あり
- ・市街化調整区域をやめて、市街化区域にすれば、人も企業もくるからいいのでは？ それほど甘いものではないだろうが、そういう考え方の人も多い

●都市との関係を見直す

- ・山間部は山や川を守り、都会にきれいな空気や水を届けている。そうした環境貢献は従来は価値換算されなかったが本当は価値がある（プライスレスな価値がある）。都市への環境貢献をとらえ直すことで、地域づくりにつなげられないか（森林ボランティア、企業の社会貢献活動など）

【その他】

- ・これまで公共事業の中断などで裏切られてきた（ダム、農業団地など）。役所を信頼して良いか疑問を感じている

【2 榎尾中学校区グループでの話し合い】グループ2

【資源】

●生活を包む森林

- ・豊かな緑がある
- ・ハイキングコースがいい。ダイヤモンドトレイルの終点榎尾山から、七越峠にかけて

●きれいな空気や水

- ・森林のおかげで、水や空気がきれい。水はおいしい。夏にはホタルが飛ぶ

●いい生活

- ・周りは森林なので、静かに暮らすことができる。夏も涼しく過ごせる

●人のつながり、気質

- ・いい人が多い。助け合いができる
- ・隣近所との付き合いがいい。密接な関係がある
- ・道がいつもきれいなのは、町会長が中心になってゴミ拾いをしてきているから

【課題】

●移動が不便

- ・道路が狭い。バスが使いにくい。農道を充実してほしい（農地周りの維持管理がやりにくい）
- ・店に行けない、買い物難民が増えてきている。坂道が多いから自転車も使いにくい地域

●災害への不安

- ・どの家も、土砂災害とは隣り合わせ（川は深いから、水害はまだ大丈夫）
- ・安全な場所がないから、安心して非難もできない
- ・国道480号が寸断されると、救助も来てくれないし、孤立してしまうのではないかと

●整備の遅れ

- ・下水道の整備が遅れていて住みにくい

●少子高齢化が進んでいる

- ・子どもが減ってきた。高齢者は増えている
- ・保育所がなくなることが決まった。小学校は、来年の新生児は1人になるらしい

●強い規制がかかっている

- ・市街化調整区域なので、家が建てられないのがネックになっている

●人が集まる機会が減っている、負担が同じ人に集中することになった

- ・若い人が少なくなってきたので、お祭りや行事などができなくなってきた。今年から盆踊りがなくなった地域もあるし、葬式も地域でやらなくなっている
- ・人が少なくなっているのので、同じ人に役員などの負担が集中してしまっている
- ・このままでは、限界集落になってしまうだろう

【その他】

- 南部地域で「田舎暮らし」ができないか
 - ・人口が減り、子どもの姿がなくなっていく地域に、地域外からの人を呼び込めないか
 - ・コストコができるなど、周りがどんどん便利になってきたので、この地域の魅力も高まってきた
 - ・他市の事例では、空き家を貸し出したり、お米をプレゼントしたりと、外部から移り住んでくる人のための支援があるようだ
- 国道 480 号の維持管理を、しっかりとしてもらいたい。山や川の管理のために重要な路線でもあるため
- 父鬼町付近では、不法投棄が増えてきている。個人も事業者も持ってきているようだ。要対策

中部地域

【3 南松尾中学校区グループでの話し合い】

【資源】

- 自然・緑
 - ・緑が多くて夏でも涼しい
 - ・夕日がきれいに見えるスポットがたくさんある
 - ・鳥の声や虫などがまだまだ多い
 - ・都会から転入する人には豊かな自然が魅力らしい
 - ・コウノトリが飛来していきっているらしい
- 公園
 - ・散歩やスポーツ、花などが楽しめる公園がたくさんある（谷山池、宮ノ上公園、あゆみ野防災公園（つくしの公園）、光明池付近の遊歩道、くすのき公園（テニスコート）、松尾寺公園など）
 - ・ヒツジで除草するというユニークな取組を行っている公園がある。地元がボランティアでヒツジの世話をしている
- 人と人のつながり
 - ・近所づきあいがあり、家庭の状況がわかりやすい
 - ・生まれ育った環境でお互いが顔見知りですぐに親密になれる
 - ・南松尾小、中、幼で合同体育祭をやっているのが良い
- 地産地消
 - ・野菜を販売する無人店舗がある
 - ・地域の資源を利用、活用したものを売って消費できる

【課題】

●大型店舗オープンの影響

- ・コストコなどの大型店が立地して道路の渋滞が懸念されるため、対策が必要

●道路基盤

- ・国道 480 号に歩道が少ない
- ・いなかに行く道が狭い
- ・信号が少なく子供が危ない

●鉄道駅へのアクセス

- ・道路のアクセスはいいが、バス便数少なく不便である

●安全面で不安

- ・夜間、道路が暗く安全面で問題がある
- ・南松尾保育園付近は、人も少なくさびしい感じ
- ・大雨への対策として、河川の拡幅が必要

●人口減少

- ・人口が減っているが、特に子どもが減っている
- ・空家が増えている
- ・南松尾小は1学年1クラスだが、隣のニュータウンはマンモス校。学校間格差の解消が必要である

●市街地との格差

- ・いろんな意味で市街地と旧村の格差がある

5 グループ別発表

各グループで出た意見の概要を紹介し、全体で共有しました。

<先生のコメント>

- ・普段話せないようなことを真剣に話し合うことができ、いい機会になったと思います。
- ・人口減少や産業のことなどは、難しい問題ですが、みんなで力を合わせて取り組んでいくことが大切です。
- ・全国的には、市街化区域を市街化調整区域に見直すという動きも出て来ていて、市街化調整区域の農空間の良さなどが再び評価されています。この地域も、全域が市街化区域になるということは考えにくいので、より暮らしやすい地域にするためにどうしていくかを考えることが重要です。
- ・都市計画の分野ではありませんが、例えば農産物をネットで販売して盛り上がっている地域や、6次産業化として加工品をつくって流通させている元気な地域もあります。誰かが何かやると、雇用も生まれたり、良い循環ができます。そういう、「やろう、やろう」という声みなさんの中から出てきてほしいと思います。
- ・近所づきあいがいい、自然のある暮らしもいい、というお話だったので、その地域の力で協力して問題解決が進んでいくことを期待しています。

6 閉会

次回の開催日時について、説明がありました。

以 上

和泉市都市計画マスタープラン

第2回 まちづくりワークショップ 記録

【北部・北西部地域】

日 時：平成 26 年 10 月 22 日（水） 19:00～21:00

場 所：和泉市コミュニティセンター 1 階大集会室

参加者：【北部地域】

信太中学校区 5 人 富秋中学校区 5 人

【北西部地域】

和泉中学校区 9 人 郷荘中学校区 8 人

和泉市 7 人

アルパック 4 人

1 開会

開会のあいさつがありました。

2 ワークショップについての説明

事務局より、ワークショップの趣旨目的の説明と、本日の進め方、第 3 回の予定などについて説明がありました。

3 グループワーク

「身近な地域の 10 年後を考える」「みんなで取り組むまちづくりを考える」をテーマに、中学校区に分かれた話し合いがありました。

北西部地域

【1 和泉中学校区グループでの話し合い】

(1) 考え方の背景・地域の現状など

- ・地域には優れた歴史や自然資源が豊富である
- ・掃除や挨拶運動、地域の見回りなど地域でできる取組はすでにいろいろとやっている
- ・子どもから大人まで昔とは違い挨拶をしないようになった。人のつながりや交流がなくなっている。子どもが夜遅くまで外で騒いでいる。これらはすべて道徳教育が不足しているためなのではないか

(2) 地域の将来の方向性・そのための課題など

- 子育てしやすいまち
- ・子育てしやすい街、全国一の子育てのまち

- ・若者が住みたくなるまち
- ・歴史を含めた文教都市
- 人と人のつながりのあるまち
 - ・人とのつながりのあるまち
- 高齢者が住みよいまち
 - ・高齢者の住みよいまち
- 美しいまち
 - ・ごみのないまち
 - ・湧水のあるまち
 - ・新しい駅前と古い町並みの共存
- 安心・安全なまち
 - ・安全な街
 - ・自然災害に強いまち
 - ・静かで落ち着いたまち
- 生活しやすいまち
 - ・活力あるまち
 - ・生活しやすいまち
 - ・買い物が便利なまち
 - ・生活環境が良いまち

(3) それに向けたまちづくり

- 子育てしやすいまち
 - ・駅前に大規模保育所をつくる。乳幼児教育の充実
 - ・子どもが安心して遊べるところをつくる。人生に必要なことのすべてを幼稚園の砂場で教わった
 - ・家庭教育の大切さを改めて重視する
 - ・自然教育の充実
 - ・保健センターでの母親教育の充実
 - ・道徳教育を大人から子どもまで行う
- 人と人のつながりのあるまち
 - ・地域内でのさらなるふれあい
 - ・行き交う人々が挨拶をする（フランスでは子どもに会うとほとんど挨拶が返ってくる）。挨拶のできる教育を徹底する（大人から子どもまで）。挨拶運動を進める
 - ・礼儀正しさの教育、道徳教育の徹底
 - ・世代間交流する場所をつくる

●高齢者が住みよいまち

- ・独居老人へのケアを充実させる
- ・高齢者の雇用を確保する

●美しいまち

- ・道路に名前をつくる
- ・ドイツ式まちなみづくり（窓を磨かないとルール違反で罰則があるなど）
- ・歴史資源を観光資源として、分かりやすいコースを設定し、説明看板を立ててはどうか
- ・道路のカラー舗装化

●安心・安全なまち

- ・地域にもっと多く防犯カメラをつけてもらいたい
- ・青パト、防犯、防災の取組

【2 郷荘中学校区グループでの話し合い】

（1）考え方の背景・地域の現状など

- ・人のつながりや交流がなくなってきている
- ・町会の加入率が半分以下となって、近所の人を知らない状況
- ・青年会、子ども会も参加者が少なくなってきた
- ・子どもが遊ぶ場所がない
- ・地域には優れた歴史や自然資源が豊富にあるが、そこまでいく歩道が整備されていない。公園や福祉会館などまでの歩道が整備されておらず、アクセスしにくい

（2）地域の将来の方向性・そのための課題など

●子育てしやすいまち

- ・今の子どもたちが大きくなって、そのまま住んでくれるまちであってほしい
- ・子どもが安心して遊べる公園がほしい。習い事をしている子どもが多く、公園があっても遊ばないようだ。また不審者の事件もあり子どもだけで遊ばせられないらしい

●人と人のつながりのあるまち

- ・地域に住んでいる人の顔が分かるまち
- ・様々な年代の交流が出来るまち

●住み続けられるまち

- ・高齢になっても、やりがいや活躍の場があるまち
- ・豊かな自然、田園風景、歴史的な建物が残っているまち

（3）それに向けたまちづくり

●歴史的な資源や自然を活用したまちづくり

- ・愛着のあるお寺や街道のまちなみなどは残していく
- ・豊かな自然があるので、市民に開放しながら活用していく
- ・資源をつなげる歩道を整備することで、観光に利用する。歩道を整備してくれたら、アドプトロードを行うことはできる
- ・観光ガイドを地元の人が行い、地域への愛着を向上させていく
- ・農業を維持するのは今のままでは難しく、田園風景がなくなってしまう。農地を整備し維持していく

●人と人のつながりのあるまち

- ・いきいきサロンなど、活動をしている
- ・場所の整備と、そこまでの歩道の整備がまず必要
- ・きっかけや集まる場所があれば、人を誘いやすい
- ・地域のつながりができれば、独居老人の問題も解決できる

●住み続けられるまち

- ・いきいきパトロール、アドプトリバーなどの取組はやっている
- ・元気なお年寄りが多いので、地域の子どもを見守る制度が出来ればよい
- ・人の為になることをやりたい高齢者の方が多い

●行政と地域の関わり

- ・今は動員がかかって参加している状態であるが、もっと自発的な関わり方ができるようにしたい
- ・まちに来てくれた人と積極的に地元の人と交流することで、このまちを好きになってもらいたい

北部地域

【3 信太中学校区グループでの話し合い】

(1) 考え方の背景・地域の現状など

- 様々な歴史・文化の資源があるが、活かされていない
- ・小栗街道は全国の歩きたくなるみち 500 選にも選ばれており、街道沿いの町並みは良いが、統一感がない。古いものが残った良い場所もあるが、新しいものもあり、それらをどうすり合わせていくかが課題だと思う
- ・弥生文化博物館が良い。弥生文化だけで博物館となっているのはここだけであり、学芸員の人も良いが、あまり知られていないのが残念
- ・古墳や遺跡など、様々な歴史・文化の資源が点在している
- 身近に豊かな自然環境があるが、あまり利用されていない
- ・公園は多いが、子どもが公園でできることが制限されており、利用者が少ない

- 惣ヶ池には多様な動植物がいて、とても良い環境だが、あまり利用されていないのが残念
 - 鶴山台志保池公園の利用者が少ない
- 団地の居住者が高齢化している
 - 鶴山台の団地は高齢化が進み、このままだとゴーストタウン化する心配がある
 - エレベーターが設置されていないため、高齢者が暮らしにくい
- 商店街の元気がない
 - 北信太駅周辺の商店街の元気がない
 - 地元に住んでいてもどこが商店街かわからない
- まちの人が集まるスペースがない
 - ちょっとしたおしゃべりなど、気軽に地域の人たちが集まることのできるような場所がない
- 保育所が多い
 - 和泉市は保育所が多いのが特徴
- 自治会への加入者が少ない
 - 熱心に活動しているところもあるが、自治会の加入者が少ない地域がある。特に団地の賃貸の居住者の加入率が低い
- さまざまな活動が行われている
 - 鶴 one フェスタが開催されている
 - 信太の森ふるさと館では芸能祭が行われ、地域の子どもたちが芸能を披露する
 - 中部地域ではジャズストリートが開催されている
 - 老人会でモーニングサロンをしていて、楽器を演奏したりしている
- 北部リージョンセンターが新たにできる
 - 図書館ができるのは魅力的に感じる
 - 北部地域全域の人たちで集まるということではなく、もっと小さな単位で集まることが多いため、普段気楽に集まることができる場として利用の仕方はできないと思う。地域の拠点としてどのように活用していくのかイメージができない
 - 防災の拠点としては使えると思う
- (2) 地域の将来の方向性・そのための課題など
- いまある地域資源を活かす
 - 和泉市には、様々な歴史・文化の資源があるので、これらを活かし、保存するだけでなく利用していきたい
 - 近くに豊かな公園や自然がある。子どもだけではなくお年寄りも含めた、地域の人たちが楽

しめるような公園や自然が必要

- ・住む場所としての魅力と観光としての魅力と両方が必要。地域の人でも外から来た人も楽しめるようにしたい

●若い人が住みたくなるまちにする

- ・団地の高齢化や商店街の衰退を防ぐために、若い人を呼び活気をつける
- ・子育てしやすいまちにする

●コミュニティを育てる

- ・自治会のつながりは重要である。日常生活においては問題ないかもしれないが、災害時など非常時には地域のつながりが必要。これまでの教訓を活かして、地域のコミュニティを育てていかなければならない
- ・防災・防犯などをきっかけとして地域のコミュニティを育てていきたい

(3) それに向けたまちづくり

●豊富な地域資源を発信する

- ・他のまちの、歴史的なまちなみは魅力的で、そこには統一感がある。統一感のあるデザインにすることが必要
- ・いろいろな資源が点在しているため、それらをつなげていき、また発信できるような仕掛けをつくる
- ・見所マップを作成する
- ・外から来た人が食事できる場所をつくる

●新しい店や、新しい活動場所をつくる

- ・商店街に若い人を呼び、お店を開く
- ・団地の一階に地域の人たちが集まることができる場所をつくったり、お店を開いたりできるような場をつくる

●自治会の活動が見える化する

- ・こういった活動をしているかわからないと、入る意味が感じられないため、活動が見えるように工夫する

●市民がいろいろな活動を開催する

- ・豊かな自然を活かして、自然の中で音楽をしたい
- ・中部でやっているジャズストリートを北部でもやるとよいと思う

【4 富秋中学校区グループでの話し合い】

(1) 考え方の背景・地域の現状など

●歴史資源や自然資源がある

- ・池上曾根遺跡や聖神社、信太山丘陵や惣ヶ池などの資源がある

●「だんじり」を中心とする濃厚なコミュニティがある

- ・月に1回は顔を合わせて会合しており、つながりが濃厚
- ・だんじりに参加するには、子どもの頃から町会に入っておくのがスムーズ。それを目的に町会に加入する人もいる

●すでに色々な取り組みを地域住民（町会単位）で実施している

- ・青年（青年団や若頭会など）による貢献（町内のそうじ、墓そうじ、こどもの日の夜店など）
- ・老人会に貢献（公園の維持管理など）
- ・自治会への貢献（年末夜警、高齢者への配食運動など）

⇒色々な住民とあいさつをするきっかけになっており、好評。子どもも参加するので、世代を超えた交流の場となっている

●地域の外から入ってきた住民は、少しなじみにくいかもしれない

- ・町会を土台としたコミュニティと、新しい住民は、あまり接点がない
- ・だんじりは華やかだが、交通渋滞などの原因にもなり、参加しない住民の理解を得にくい

●そもそもだんじりは、まちづくりと関係する祭りだった

- ・もともとは、収穫を祝うためのお祭り
- ・昔は道がでこぼこだったので、それを平らにするために、町内の道を巡行する意味もあった
- ・今では、この祭りの意味合いが薄れてしまっている
- ・だんじりの時期は、地域の経済が活性化する（消費が活発になるため）

●自主参加の活動もある

- ・池上曾根遺跡周辺では、アドプトロードの仕組みで「花を咲かそう会」が花育てをしている
- ・そのおかげで、たばこのポイ捨てが減った

(2) 地域の将来の方向性・そのための課題など

●伝統を土台にしたコミュニティの継承

- ・生活の中での考え方は、親から子へ受け継がれていくもの。伝統が受け継がれていくもとなるコミュニティがしっかりあるので、それをこれからも継承していきたい
- ・今も、高齢者への対応など、課題対策の活動をしている。その基盤は、強固なコミュニティ
- ・だんじりや町会の活動への理解を得ないと、活動が先細りしてしまうかもしれない。地域への貢献活動を通して、理解を広めていく必要がある
- ・だんじり祭りの時、道の上にごみが散らかるのを女性たちが掃除している。そういう力を、

ほかに活かせるといい

●それ以外のコミュニティ

- ・伝統的なコミュニティ以外の住民も気持ちよく生活するために、だんじりとは関係なく参加できる行事などをきっかけに、交流をしていくのが大切

(3) それに向けたまちづくり

●伝統的なコミュニティの力を、色々な活動に活かしていく

- ・まちづくりで地域に貢献することで、まちもよくなり、町会や青年団などのコミュニティへの理解も広がる。そのために、公園など多くの人が利用する場所の掃除など、他の住民と触れ合うきっかけを意識して取り組んでいく

●歴史的な資源や自然を核にしたまちづくり

- ・地域の誰でも参加できる、開かれた「交流の場」づくりに取り組んでいく（行事の開催など）

●課題対策のための活動

- ・今取り組んでいる、高齢者対策の活動などを続けていく

5 グループ別発表

各グループで出た意見の概要を紹介し、全体で共有しました。

6 閉会

次回開催日時と内容について、説明がありました。

- ・ 開催日時：平成27年1月下旬から2月中旬を予定
（開催日が決まり次第郵送にて案内）
- ・ 内容：第1回・第2回の意見を踏まえ、「地域のまちづくり方針（案）（地域別構想案）」
についての意見交換

以 上

和泉市都市計画マスタープラン

第2回 まちづくりワークショップ 記録

【中部地域】

日 時：平成 26 年 10 月 28 日（火） 19:00～21:00

場 所：和泉シティプラザ 地下 1 階多目的室

参加者：【中部地域】

北池田中学校区 11 人 南池田中学校区 9 人

石尾中学校区 10 人 光明台中学校区 6 人

和泉市 7 人

アルパック 5 人

1 開会

開会のあいさつがありました。

2 ワークショップについての説明

事務局より、ワークショップの趣旨目的の説明と、本日の進め方、第 3 回の予定などについて説明がありました。

3 グループワーク

「身近な地域の 10 年後を考える」「みんなで取り組むまちづくりを考える」をテーマに、中学校区に分かれた話し合いがありました。

中部地域

【1 北池田中学校区グループでの話し合い】

(1) 地域の将来の方向性・そのための課題など

●地域の人たちが交流できるまち

- ・コミュニケーションを活発化させる。世代間交流ができるようなまちにしたい
- ・イベントが多く、楽しいまちにしたい。イベントをきっかけとして地域の人たちの交流が生まれればよいと思う
- ・子ども会や婦人会、自治会などの加入が少なかったり、そういった集まりがなかったりする。現在の地域の人たちに合わせた、新しい交流できる仕組みづくりが必要だと思う

●子育てしやすいまち

- ・子育てにやさしいまち、子どもたちが住みたいと思うまちにする
- ・ファミリーサポート体制をつくるなど、子育てに関する体制を充実させる

- ・お父さん・お母さんが仕事をしながら子育てできるような環境が必要だと思う
- ・地域の子どもと高齢者が交流できたらよい

●高齢者が元気なまち

- ・脳も体も、高齢者が元気なまちにしたい
- ・高齢者が働ける環境が地域にあるとよい

●教育のまち

- ・地域と大学との交流が大切
- ・若い人に和泉市に住んでほしい
- ・教育のまちとして、子どもも大人も学べる環境にしたい

●地場産業を発信する

- ・地場産業をPRできるまちにしたい
- ・地産地消文化が根付かせられるようにしたい

●愛着がもてるまち

- ・地域の人たちが愛着を持ち、住み続けたいと思うまち、出身者が和泉市に戻ってくるようなまちにする

●自然を大切にする

- ・緑や水など自然を大切にし、ゴミのない美しいまちにする

●地域の現状に合ったインフラや施設の整備

- ・和泉中央駅周辺はまちの状況も変わってきて、現在の人の流れに動線計画が合っていないように思う
- ・歩道橋が使いにくかったり、横断歩道が必要だと感じる場所がある
- ・コンパクトシティ化する。医療施設をまとめた方がよいのではないか
- ・トリヴェール和泉の基本計画を守ってほしい
- ・道路の整備が必要

(2) それに向けたまちづくり

●地域の人たちが交流できる仕組みづくり

- ・弘法寺では肝試しやジャズなどイベントを開催している。そういった活動はとても良いと思う。イベントのような単発のものだけではなく、常に開かれている場所も必要だと思う
- ・公園などにカフェを作り、みんなが気軽に集まれるような場所があるとよい
- ・おもしろいイベントを企画する。ジャズストリートや歩くイベント、B級グルメ、盆踊りなど様々なイベントがある。新しいイベントを企画して交流のきっかけをつくる
- ・自治会館の利用があまりされていないので、子どもとお年寄りとの交流の場（勉強をみても

らうなど)に使うなど、管理も含め、新しい利用の方法を考える

- 高齢者が地域の中で働ける環境をつくり、それが高齢者同士や子どもとの交流にもなるとよい
- 現在桃山学院大学の学生が子どもたちに勉強を教えるなどの活動をしている
- 和泉市の野菜を活かして、農家で子どもが何か体験できるような企画をする
- 旧村と新興地との交流が和泉市には必要
- コミュニティを育てることは大変なことで時間がかかると思うが、何かきっかけを作らないと何も変わらない。10年後に向けた土台を徐々につくっていければいい

●自然を守るための活動をする

- 自治会でゴミ拾いなどをしてきている
- 道路の中央分離帯のところの緑など、現在手入れされていない場所がある。緑の維持のための活動が必要
- 年に1回美化運動をするのはどうか
- 槇尾川の河川沿いを遊べるようなオープンスペースにし、利用できるようにすると、自然がきれいに保たれるようになるのではないか

●地域の現状に合わせた計画づくり

- 時が経つとまちの状況も、そこに住む人の状況も変わってくる。現状に合わせた計画づくりが必要

(3) その他

- 桃山学院大学からプロ野球選手を輩出したい

【2班：南池田中学校区グループでの話し合い】

(1) 地域の将来の方向性・そのための課題など

●住み替えながら、住み続けるまち

- 市外に働きに行くにも交通事情が良く、基本的には便利で住みやすいまち
- 結婚後すぐの夫婦、小さい子どもがいる家庭、中学生くらいの子どものいる家庭、子どもが家を出て二人暮らしになった夫婦、という段階によって、必要な家の大きさが違う
- それに合わせて市内で家を住み替えれば、和泉市に気持ちよく住み続けられると思う

●子育てのしやすいまち

- 住みやすく、夫婦ともに働きやすいまちにするために、子育ての支援をして子育てしやすいまちにする

●「集落」の良さを認識し、長所を伸ばす

- 農地が残っていて、心地よい空間がある。それは、集落だけでなく周りのまちに住む人も恩

恵を受けている

- 道路は狭いが、買い物に便利な施設が近くにあるし、住みやすいという意見もある
- 生活環境を快適にしながら、良さを伸ばしていくことが大事

●「貴重な」自然・生物を守るまち

- 自然は、住みやすい環境をつくり出してる資源
- 谷山池は、絶滅寸前の生物もいるとされ、コウノトリも飛来した、貴重な自然資源。光明池も美しい

●ニュータウン内、集落内、ニュータウンと集落間のつながりのあるまち

- 急に人口が増えたので、つながりが薄れてしまっている。つながりをつくっていく

(2) それに向けたまちづくり

●緑や自然を保全する

- 谷山池を売却する話もあったが、これを守っていく取り組みを通して、地域の歴史への住民の理解が進む。まずは、地域住民が貴重さを広く知るべき。子どもへの体験学習もいい
- 買い取って残すとなれば、莫大なお金がかかるので、その方法は考えていく必要がある
- 観光地化してしまうと環境が荒らされるので、誰が利用する場所にするのか、考え方は整理する必要がある

●つながりづくり

- 例えば光明池や谷山池の周りのウォーキングを通して、つながりづくりのきっかけをつくる

●空き家のリノベーション～外の人が入ってくるきっかけ

- 廃業した工場の建物が、リノベーションされて生まれ変わった店がある（運営は市外の人）
- 大学生など若者がたくさん訪れている
- 身近なものを生まれ変わらせ、外から人が入ってくるきっかけづくりに有効

●地域で子育てを応援する

- 今も地域では、老人会が自治会館で囲碁将棋などの遊びを教えているが、なかなか人が集まらない。塾などで忙しいらしい
- 学校ともっと連携して、放課後に児童と高齢者が関わったり、校庭を開放してもらって高齢者が見守るなど、子どもが参加しやすい取り組みをしたい
- 安心して子どもを任せられるのは、「身近な」人が「小さい」単位で見守ってくれること。高齢者の中でも特におじいちゃん世代が、自治会館や公園で子どもを預かってくれるような仕組みをつくっていききたい

●地域内での住み替え

- 実際に、住み替えが起こっている例もある。そういったモデルの検討から始めてほしい

●農業したい人が集落に移り住める仕組み

- ・農業で生活が成り立つような仕組みをつくっていく。付加価値化、高度化、集団化など
- ・ふるさと納税で特色を出している都市もあるし、地元の店とコラボするというやり方もある。ブランド化すれば高く売れる。工夫を重ねていく必要がある

●テクノステージで働く

- ・物流関係の倉庫や工場が多く、雇用をあまり吸収できていない。もう少し市内の人が働ける産業を誘致できないか

(3) その他

- ・「まんべんなく」事業をするのではなく、力点を明確にして取り組んでほしい

【3班：石尾中学校区グループでの話し合い】

(1) 地域の将来の方向性・そのための課題など

●安心・安全に住み続けることのできるまち

- ・現状は子どもの遊び場所が少ない
- ・今より人が多くなると思うので、安全面（治安）を充実させるため交番（派出所）が欲しい
- ・災害時の避難場所が充実したまちになって欲しい
- ・子どもが安心・安全に暮らせるまちになって欲しい

●交通利便性の高いまち

- ・次の世代（今住んでいる人たちの子・孫）が住み続けたいと思うには交通環境の充実が不可欠である。道路整備の推進、坂道対策、バスの増便など
- ・高齢者が増えることを想定して交通の便を今以上に充実させる
- ・自転車専用通路を充実させる
- ・通勤・通学が便利じゃないと新たな人は入ってこない（のぞみ野などで人が増えているのはバス路線があるから）

●交流・つながりがあるまち

- ・住民同士の交流ができる事が大切
- ・若手が頑張っている自治会もある。そういうところを増やしていく
- ・子どもと親世代との交流を深めて、高齢者の存在価値を認識してもらおう（頑張っている高齢者がいることを知ってもらい、自らも自治会活動等に参加してもらおう）
- ・自分たちがこれまで取り組んできたノウハウ・経験を次世代に伝えていく
- ・一方で世代間交流等を必要としない（望まない）マンション住民等がいる。どうするべきかが課題である
- ・マンションが多い地区では自治会が無いところも多い

●環境が良いまち（ゴミがない等）

- ・キレイなまちは住んでいて気持ちが良い
- ・環境が整っているまちが良い（ゴミがない、空気がキレイなど）
- ・まちの雰囲気・たたずまいが良いまち

（２）それに向けたまちづくり

●地域での見守りを強化する

- ・住民の有志で子ども見守り隊を結成している取組がある
- ・緑ヶ丘やのぞみ野では青パトにより犯罪が減った（治安が良くなった）
- ・桃山学院大学の学生が子どもの見守りをする「桃パト」を発足させた。こういう取組を拡げて行って欲しい
- ・のぞみ野では準工業地域に遊戯施設の計画が出た際に協議会を立ち上げた経緯がある。普段からそういった事を想定して検討しておくことが必要と感じた

●交通対策を推進する

- ・コストコやららぽーと等の大規模商業施設の出店で交通量が増加しており、住宅地内の通過交通対策が重要である
- ・交通対策は地域だけではどうにもならない。行政を巻き込んだ対策が必要である

●つながりづくり

- ・自治会の役員の定年制など人が入れ替わるルールをつくる
- ・子育て世代の代表であるPTAを自治会活動に巻き込めないか
- ・「桃パト」の取組のように大学生を巻き込む
- ・自治会、マンションの垣根は取り払う夏祭りを行っている。結果、若い人の参加も増えており、こういう取組が重要である
- ・若者の手本となる、尊敬される高齢者にならなければいけない。そうすると、若い人もいずれは地域のまちづくりに参加してくれるようになるのではないか

●地域で美化・清掃活動を率先して行う

- ・商店主は自分の店の前だけでなく周囲も掃除をしてくれているところが結構ある。そういう人には自治会で感謝状を贈った。感謝する気持ちを表すことでお互いが気持ちよく活動に取り組める
- ・自治会でも美化・清掃活動は継続して取り組んでいる。「継続は力なり」で現状の取組を続けていくことが大事

【4班：光明台中学校区グループでの話し合い】

(1) 地域の将来の方向性・そのための課題など

●高齢化に対応したまち

- ・お年寄りにやさしいまち
- ・お年寄りには移動が難しい場合が多いので、市内の移動手段が必要

●良好な住環境を保っているまち

- ・光明台は、かつては和泉市の芦屋と呼ばれ、高級な住宅地として有名であった。住宅地として充実し、また人気を復活させてほしい
- ・空き家が増えてきており、その敷地内の管理ができておらず問題である。道路にはみ出た庭の植栽等を除去できる仕組みなどが必要
- ・施設の老朽化への対応が必要。地区センターを再整備してほしい

●豊かな自然を活かしたまち

- ・光明池周辺など豊かな自然を活かしていくべき
- ・光明池だけでなく、自然環境が残っている場所が多く保全が必要
- ・自然と共存した取組があればよい
- ・廃棄物が放置されているところがあるので、対応が必要

●にぎわい・つながりのあるまち

- ・市民が交流する場が必要。活気があり、人と人のつながりが強いまちづくり
- ・地域の祭りやイベントが出来る場所を充実させてほしい
- ・子供たちの元気な声が絶えない住宅地にしたい
- ・子育てが容易なまち
- ・出会いの機会があるまち

●現状にあったハード整備

- ・施設などはある程度整っているので、新規のハード整備は不要なのではないか
- ・住民による施設の維持管理ができる仕組みを充実させていくべきである

(2) それに向けたまちづくり

●自然を保全し、交流の場として活用する

- ・田・池などの原風景が残るルートをウォーキングすることで、健康にもよく、交流の場となる
- ・みかん狩りなどのイベントを企画する自治会もある。もっと、今ある環境を活かした交流の機会をつくるべきである
- ・単に観光地化してしまうと環境が荒らされるので、誰が利用する場所にするのか、考え方を整理する必要がある

●高質な住宅地の維持に向けて

- ・空き家を住み替えに使えるように管理していく必要がある
- ・雑草の除去など、空き地（空き家）の管理を地域住民でできるようにすべきである
- ・路上駐車が増えているのが気になる
- ・ナンキンハゼの街路樹は非常に美しく誇りに感じるが、落ち葉が邪魔になるため、落葉する前に剪定してしまう。落ち葉を積極的に掃除するなど住民が取り組んでいければ美しい並木を維持できる

●住宅地内で交流の場をつくる

- ・交流できる場づくりが必要
- ・公園等はあるがあまり使われていないことも多い。スポーツ大会やグルメ大会など多くの人が集まるきっかけをつくる
- ・地域にこだわらず、広い活動が必要。スポーツ大会などでは、市内の人々が集まれるようにしていくべきである
- ・地域の組織がつながる場が必要。自治会活動などを知らない人も多く、組織の垣根を越えた取り組みをしていくべき

●広場や公園の使い方を広げる

- ・地域には、人が集まれる広場や公園がたくさんあるが、ボール遊びなど禁止されていることが多く、現状あまり使われていない。地域の交流の場として、使える機会を増やすべき、園内できることを増やすべきである
- ・池での釣りなども禁止されているが、釣りが出来るようになるとお年寄りが集まるようになる

4 グループ別発表

各グループで出た意見の概要を紹介し、全体で共有しました。

5 閉会

次回の開催日時と内容について、説明がありました。

- ・ 開催日時：平成27年1月下旬から2月中旬を予定
（開催日が決まり次第郵送にて案内）
- ・ 内容：第1回・第2回の意見を踏まえ、「地域のまちづくり方針（案）（地域別構想案）」
についての意見交換

以 上

和泉市都市計画マスタープラン

第2回 まちづくりワークショップ 記録

【南部・中部(一部)地域】

日 時：平成 26 年 10 月 29 日（水） 19:00～21:00

場 所：和泉市南部リージョンセンター 2階大会議室

参加者：【南部地域】

槇尾中学校区 24人

【中部地域】

南松尾中学校区 5人

和泉市 7人

アルパック 3人

1 開会

開会のあいさつがありました。

2 ワークショップについての説明

事務局より、ワークショップの趣旨目的の説明と、本日の進め方、第3回の予定などについて説明がありました。

3 グループワーク

「身近な地域の10年後を考える」「みんなで取り組むまちづくりを考える」をテーマに、中学校区に分かれた話し合いがありました。

南部地域

【1 槇尾中学校区グループでの話し合い】グループ1

(1) 地域の将来の方向性・そのための課題など

●人口減少を食い止める

- ・交通や買い物が不便、住みにくい
- ・若者は大学進学の時に出て行ってしまい、働き口を外で見つけて帰ってこない
- ・通勤圏に働く場所が無いから出ざるを得ない。ららぽーと開業でアルバイトやパートの口は増えるが、正社員を雇うわけでは無い
- ・企業誘致という話が出るが、企業が来ても地元から採用するとは限らない。テクノステージだって外から来る人が多い
- ・工場誘致ができれば地主は土地の賃借料で収入が見込める。しかし、工場を建てられる場所をどこにするかは悩ましい。特定の場所に決めたら不公平感が出る

- ・地域の資源である、農業・農地を活かして、活性化できないか。農業・農地であれば市街化調整区域のどこでも取り組める。不公平は無い

●地域の良さを活かす

- ・自然の中で子どもを育てられること、都市に近い立地などいい面を活かす
- ・「第二のふるさと」として、地域との縁で結ばれた人、心のつながりを増やしていく
- ・地域外の人は「都市に近い、ほどよい田舎の環境」にあこがれを持っている人も多い
- ・地域内の人はその価値に気づいていないことが多い。日常生活の不便が先にくる

(2) それに向けたまちづくり

●農業・農地の活用

- ・農用地はあるが、次の担い手がない。専業農家も減っている
- 新規就農を応援・指導する仕組みをつくって、ビジネス化する。ノウハウと農地を継承していく「教える」ことがビジネスになる
- 最近、都会から「半農半^{エックス}」のスタイルで地域に住み込む人を誘致する動きがある。参考にしては

●みかんで地域再生

- ・みかん山は、一度放置してしまうと、再生するのに10年くらいかかる。維持管理し続けていくことが大事
- 新規就農を受け入れる環境整備が必要。農地の貸し借り、家の貸し借り、販路開拓、初期投資などを地域がサポートする。そうしたサポートもビジネスの一環になる
- 「農家」を育成するのではなく、「農業」つまり産業として成立させるために、今後はマーケティングやデザイン、HP活用も重視していくべき。そうした部分は若い人や都会の人が関わりやすい

●都市との連携・交流

- ・都市に近い立地環境を活かし、気軽に農業体験やレクリエーションできる仕組みをつくる
- ・企業と連携して山の維持管理をする（ENEOSの森のような）
- ・農業アルバイトや、ボランティアを受け入れる。徐々に地域になじんでもらって、交流のきっかけにしていく

●大学との連携

- ・桃山学院大学、大阪産業大学、大阪府立大学などの大学と連携した「森づくり」の取り組みが進められている。これを集落づくりに発展させていく
- ・空き家を使った「大学の現地ラボ」をつくる。地域もまちづくりと一緒に学び、地域づくりに役立てる。住民が学生に教えたり、学生から提案を受ける
- ・企業や大学との橋渡し役として、行政（市、府、土木事務所）のサポートに期待大

●地域情報の発信

- ・ほどよい田舎暮らしを求めている人は結構いて、問い合わせもある
- もっともっと不便な田舎の方が必死に情報発信している。地域に来て欲しいと思っていることを積極的に情報発信していかねばならない
- 地域外の人が横山のことをどう思っているのか、聞いてみたい。レジャーなどの交流の機会は良いチャンス
- 南部リージョンセンターが窓口になってくれたおかげでファミリー層が移住してきた。まさにファインプレー。地域情報の一元化と柔軟な情報の受け渡しが大切

●住みやすい地域へ

- ・よその人は「自然がいっぱいいいですね」というが、日常生活は不便なことが多い
- ・地域のお店が、電話注文の配達サービスを始めた。高齢者が増えてきた地域にとってはうれしいこと。応援していきたい

(3) 地域活性化の可能性の芽はある！

- ・市街化調整区域だから何もできない、何も無い地域だと思っていたが、違った角度から地域を見ることができたし、地域作りの可能性の芽はあると感じた
- ・現実には、生活上の不便さや法律の壁などもあり、簡単にはいかないが、地域の将来を前向きに考える良い機会になった
- ・今のままではだめ。希望を持って計画していくことが大事

【2 榎尾中学校区グループでの話し合い】グループ2

(1) 地域の将来の方向性・そのための課題など

●外から人が訪れ・住むまち

- ①まずは南部地域に遊びにきてもらって、この地域の良さや資源を知ってもらう
- ②地域での生活の不便なところや、必要な付き合いなどを知ってもらうため、一定期間体験で住んでもらう
- ③地域で空き家を紹介して、暮らしてもらう

●今住んでいる人が、この先も住み続けたくなるまち

- ・交通など不便な問題を解決して住みやすくすることで、地域外に引っ越していってしまう人をなくす。林業が廃れて、生計の成り立つ仕事が近くにない。働きに行きやすくするためにも交通が大事

(2) それに向けたまちづくり

●外から人が訪れるしかけづくり

- ・BBQ 場をつくって、地域で採れた自慢の野菜を楽しんでもらう。桜も植えれば名所になる。横山炭も使って、特産品のPRも兼ねる

- ・景色の素晴らしい榎尾山から七越峠のコースをPRしてたくさんの人に楽しみに来てもらう
- ・ぜんそくの人など、きれいな空気が必要な人に向けて（ターゲットを絞って）発信する

●体験居住・空き家への永住のしかけづくり

- ・地域で空き家をリフォームして、「お試し」で住める家を用意する。色々な付き合いや役もあるが、それでもこの地域が好きになった人に住み続けてほしい
- ・住みたいと思った人には、空き家を紹介する。入居の条件として、自治会活動や地域の行事への参加は挙げておく必要がある

●山の維持管理

- ・林業は成り立たないが、災害防止のために、維持管理は持ち主がしている。地域外から森林ボランティアがやってきて、手伝ってくれている。市でボランティア講座をしているらしく、この仕組みはとても助かっている

(3) その他

- ・一時期、ホテルを川で育てていた。今はだいぶ少なくなってしまった。これからも、コンクリートの三面張り護岸などはやめてほしい
- ・川が汚れてきて魚がいなくなった。水量が減ったからだと思う
- ・南部リージョンセンターは、売り場が狭い上、人を惹きつける機能が不足している。レストランや土産物屋などを充実してはどうか

中部地域

【3 南松尾中学校区グループでの話し合い】

(1) 地域の将来の方向性・そのための課題など

●住み続けたいまち

- ・まちづくりは「住んでいる人が主役」であることが基本で、これがまちづくりの原点
- ・都会と田舎の融合した「トカイナカ」を目指す
- ・10年後も市民が愛着を持って住み続けたいくなるまちを目指す
- ・定住できる環境づくり
- ・住みたいポイントの一つに教育が充実していることが挙げられる

●人とのつながり

- ・人と人とのつながり、あたたかさがある
- ・人と人がつながれるまちにしたい
- ・車社会の中で、人と人とのつながりができる拠点づくりが必要
- ・寝たきり、引きこもりのお年寄りがないまちにする

●にぎわいのあるまち

- ・人がたくさん訪れる活気のある街を目指す

●便利なまち

- ・買い物や交通が便利なまちを目指す
- ・松尾寺行きのバスは充実が必要

●自然や緑が豊かなまち

- ・ホテルが住めるような美しい水辺環境を時代に継承する。ホテルが住める＝生物の多様性につながる
- ・自然とふれあいのあるまちを目指す
- ・大型店舗が自然の近くに建てられるようになってきた
- ・野外活動やハイキングを通じて子どもも大人も豊かな自然に触れ楽しめるまちにする

(2) それに向けたまちづくり

●住み続けたいまち

- ・「住み続けられるまち」ライフサイクルのニーズに対応できる多様な住宅を供給する
- ・桃大生の定住に向けて、地域で企業（IT関連など）を誘致する
- ・家が安く建てられることをもっとPRする
- ・土地はたくさんあるので、家を建てる人に援助する
- ・空き家を活用できるシステムをつくる
- ・生産者の顔が見える食育を学校給食で推進する
- ・ハイレベルな、または特色ある小中高校を誘致する

●人とのつながり

- ・人が気軽に集まれる場所としてカフェ（空地の活用）などをつくる
- ・高齢者の憩いの場、年齢を問わない集いの場をつくる
- ・高齢者宅などへ御用聞きサービスをする
- ・通行を目的とする道路のほか、コミュニティを目的とした道路をつくる
- ・ウォーキングしやすい道を整備する
- ・地域の行事、お祭りを残す

●にぎわいのあるまち

- ・雇用などの面でらぼーとをうまく活用する

●便利なまち

- ・地域での買い物、医療の場をつくる
- ・乗り合いタクシーや、めぐーる（コミュニティバス）の路線拡大により、それぞれの地域に見合った交通網を充実する
- ・準公共交通システム（福祉バス、コミュニティバス、介護タクシーなど）が必要

- ・コミュニティバスをNPOで運行してはどうか（行政が一部補助）
- ・巡回バスの運行が必要

●自然や緑が豊かなまち

- ・身近な自然を保全する
- ・グリーンツーリズムや農林業体験を通じて人の流れを変える（呼び込む）
- ・散歩コースの案内板の整備
- ・「里山」と「真剣に自然を保全する所」を区分する
- ・緑や自然を守っていく

●まちのPR

- ・大型店舗ができ、車交通が増えたので案内板で自然や緑野菜などをアピールする
- ・和泉市は住みやすいことをもっとPRする
- ・小中学校の少人数化が進み、廃校になるとの声があるが、悪い子はいないのでもっとPRしてほしい
- ・地域にしかない名物を発信する
- ・道の駅のPRを強化する

4 グループ別発表

各グループで出た意見の概要を紹介し、全体で共有しました。

5 閉会

次回の開催日時と内容について、説明がありました。

- ・ 開催日時：平成27年1月下旬から2月中旬を予定
（開催日が決まり次第郵送にて案内）
- ・ 内容：第1回・第2回の意見を踏まえ、「地域のまちづくり方針（案）（地域別構想案）」
についての意見交換

以 上